

ろうさいの森

Vol. 175 4月号



撮影：病院長 森田 明夫

整形外科 入院診療・救急応需再開のお知らせ

東京労災病院では、2024年5月以降長く入院・救急患者応需を中断しておりましたが、2025年4月1日付をもって7名の常勤医が赴任し、全ての業務を再開しました。

大変長い間、ご心配とご不便をおかけいたしました。今後精一杯丁寧で真摯な医療に取り組んで参ります。

診療内容：

診療疾患：整形外科一般、外傷、関節疾患、手の外科、脊椎の外科、骨粗鬆症、リウマチ疾患等

外来は週5日 午前・午後、救急は365日対応します。

また合わせて関節センター、四肢外傷センター、手の外科センターを開設しました。

当院整形外科ホームページでもご案内しております→



【はたらく乗り物大集合 in HEIWAJIMA】に参加しました

3月22日（土）・23日（日）、BIGFUN平和島で行われた「はたらく乗り物大集合！」に参加しました。2日間で400人を超える方々が当院のブースを訪れ、初期救急の模擬体験や、お子さんが子供用白衣を着用して写真撮影するなど大いに盛り上りました。



ひだまり「健康・楽しみ・交流の場」を開催します

「東京労災病院で『健康・楽しみ・交流』をテーマに誰でも集まれる場所が始まります。是非、お気軽にお越しください。お待ちしております。



対象：地域住民（指定なし）どなたでもお越しください。

日時：毎月第三火曜日
15時30分～16時30分
場所：東京労災病院3階 大会議室
内容：健康に関する講義、レクリエーションや体操など

お問い合わせ：03-3742-7301
東京労災病院
中央リハビリテーション部

病院探検シールラリーを開催いたしました

3月30日（日）、『こども食堂moi!』さんが、当院において「病院たんけんシールラリー」を開催しました。今回は、1～2階の各外来を周り、シールを集めるとガチャガチャができるという企画でたくさんのかどもたちが参加しました。また、みんなでいっしょに学習したり、キッチンカーが提供するお弁当を食べたりと、楽しい時間を過ごしていました。



循環器科

副院長 循環器科部長 吉玉 隆

『循環器』というと、皆様はどういう印象をお持ちでしょうか？何が循環するのだろうとか、難しそうとか、そういう印象をお持ちの方も多いかと思います。簡単に言えば、血液が循環する器官を意味します。もちろん、それだと全臓器血液が循環していますので、全臓器が対象になりますが、循環器科はその中でも、心臓と血管を対象にしています。

具体的には、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心臓弁膜症、不整脈、心筋症、末梢血管（下肢の血管など）の狭窄・閉塞などが対象です。ただし、頭の血管は脳神経外科が、お腹の臓器の血管は放射線科が担当することが多いです。また、それらを予防する観点から、高血圧、脂質異常症（高コレステロールなど）、糖尿病などの治療も行っております。

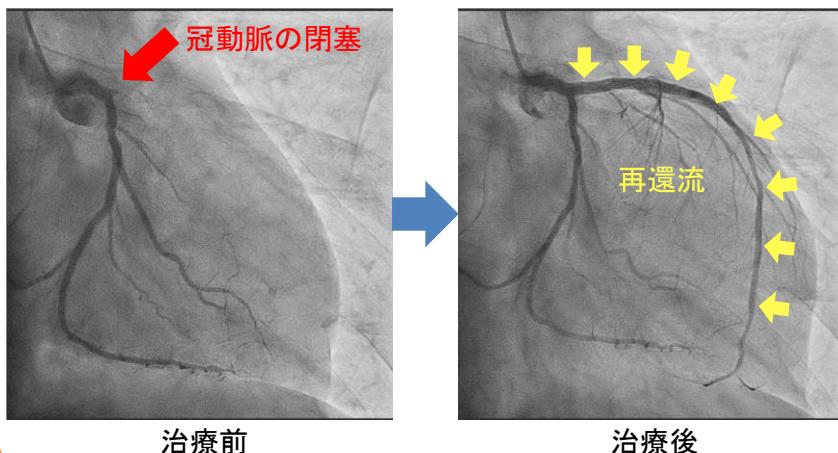
当院では、循環器疾患全般にわたって幅広く診療を行っており、心臓超音波（心エコー）装置、および、最新鋭の心・血管撮影装置をこれらの診療に役立てております。なかでも治療の緊急性を要する急性心筋梗塞や急性心不全、失神を伴うような徐脈などには、常に対応できるような体制をとっており、急性期治療を積極的に行っております。2016年8月から本格的に始まった、心房細動等の不整脈治療の一つであるカテーテルアブレーションも件数を伸ばしています。

令和6年度の主な検査としては、心臓超音波検査2,171例／年間、ホルタ一心電図474例／年間、施行しております。なお、当院には心臓血管外科は設置しておりませんので、手術が必要な場合には、東邦大学医療センター大森・大橋病院、東京ハートセンター、NTT東日本関東病院、川崎幸病院、イムス葛飾ハートセンターなどとの連携を取って対応しております。

急性心筋梗塞について

【概要】 心筋に酸素と栄養を届けている『冠動脈』が閉塞して、心筋そのものが壊死してしまう病気です。病院で治療を受けても5-10%が亡くなると言われ、日本人の死因第二位とされています。

【症状】 突然の、締め付けられるような強い胸の痛み（主に胸の中央部～胸全体）や胸部の圧迫感が心筋梗塞の代表的な症状です。随伴症状として、肩や腕、首に痛みや歯の痛み、冷や汗や呼吸困難感を催す事があります。高齢の方や糖尿病があるとはっきりとした症状を示さない事があり注意が必要です。



【治療】 できるだけ早く閉塞した冠動脈を再還流させることが重要です。数時間以内に再還流させると、後遺症が低減されることが知られているので、当院では常に緊急でカテーテル治療が出来る体制をとっています。また、急性期治療の後は、心臓リハビリテーションなどを通じて、再発予防の指導を行っております。

外科・消化器外科

院長補佐 消化器外科部長 小林 隆

『消化器外科』……どういった病気を診る“外科”か、みなさんご存じですか？

おおまかにいうと『消化器外科』とは消化器内科と同様に消化に関わる腹部の臓器の病気を中心に診療をおこなう診療科です。

あつかう臓器も消化器内科と同様、**食道から胃、小腸、大腸、肛門**といった食べ物の通り道である消化管に加えて、**胆のうやすい臓**といった食べ物の消化に関わる臓器、栄養を蓄え身体の毒素を解毒する役割をもつ**肝臓**まで幅広いです。

さらに、**鼠径ヘルニア**や**痔**など必ずしも“消化”にかかわらない病気もあつかっています。

具体的には

- ・胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆のう/胆管がん・すい臓がん、といった**悪性疾患**
- ・胆石/胆のう炎・急性虫垂炎・鼠径ヘルニア・腸閉塞・痔核/痔ろう、といった**良性疾患**や**腹部の救急疾患**

これらの疾患を主に手術で治療するのが消化器外科になります。また、手術だけではなく、患者さんの病態に応じて**抗癌剤など薬物治療**や**放射線治療**も様々な診療科と一緒に協力しています。

ご自身や身の回りの方で「手術を受けた方がよいのか」、
それとも「経過観察でよいのか」といったことで悩まれている方が
いらしたら、いつでも我々にご相談ください。

患者さんの希望を伺いながら、最も良い対応を一緒に考えていきましょう！



例えば…こんな時は『消化器外科』に相談してください！

- 脂っこい食事をすると背中が張ってきたり、みぞおちから脇腹が重苦しくなる
 - 人間ドックや健康診断で胆石を指摘されたけど痛くないのでそのままにしている
 - 以前、急性虫垂炎といわれたけど抗生素で治ったのでそのままにしている
 - トイレにいってお尻を拭いたら血が付いたけど、しばらくしたら血がつかなくなったので“痔”だと思ってそのままにしている
 - なんとなく足の付け根が膨らんでいるような気がする
- ⇒ そのままにせず、われわれ消化器外科にご相談ください！
- 優しい外科医が笑顔でご相談にのります



ろうさいの森

Vol. 176 5月号



撮影：病院長 森田 明夫

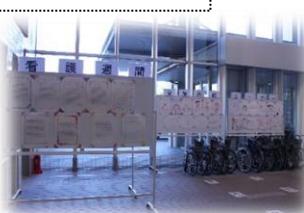
看護週間が始まります

看護週間とは、看護の心、ケアの心、助け合いの心を老若男女問わずだれの心にも育つことを目指し、活動する期間のことです。

これは「クリミアの天使」とも呼ばれ、病院・看護施設の創設・改善に努力し看護婦の教育制度を整えたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日が5月12日であったことに由来します。

そこで、当院では5月11日（日）から5月17日（土）を看護週間とし、職員の家族が描いた「家族の絵」や「心に残った看護エピソード」を正面玄関にて掲示いたします。ぜひ、ご覧ください。

昨年度の様子



大田区救急業務連携連絡協議会 より表彰されました

令和7年4月25日（金）、救急業務への取り組みに対し、当院の谷口救急救命士へ大田区救急業務連絡協議会より感謝状をいただきました。

当院としましては引き続き、地域医療の為に貢献してまいります。



外来担当医表は裏面へ

独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院
〒143-0013 大田区大森南4-13-21 TEL03-3742-7301

5月14日は病院設立の日

この度、東京労災病院は設立76周年を迎えることができました。

当院は昭和24年5月14日に開院した、全国の労災病院の中で2番目に誕生した歴史のある病院です。

開院当初は内科・外科の2診療科と病棟数21床でしたが環境の変化へ対応するため、二度の全面増改築等を踏まえ、現在では、28診療科までになりました。

これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。今後ともご愛顧のほどよろしくお願ひいたします。

出張講座を行いました

令和7年4月24日（木）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の検査技師が「血液健診でわかること～検査データの見方～」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様におかれましては、誠にありがとうございました。



～次回開催日程～

日 時：5月16日（金）14:00～
演 目：「認知症のための核医学検査」
場 所：大森南図書館
参加費：無料

腎代謝内科

腎代謝内科副部長 杉田 和哉

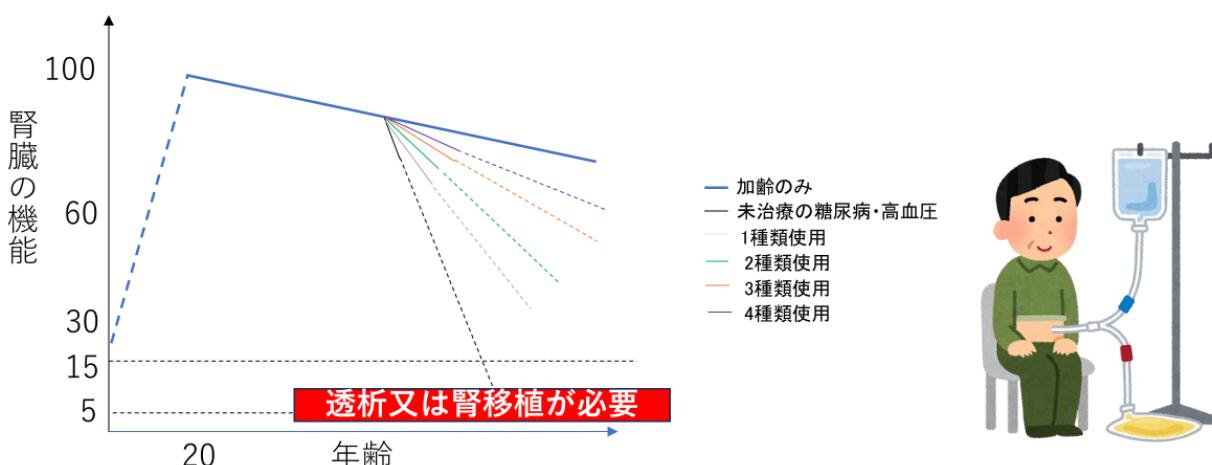
皆さんは”腎臓“という臓器に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？腎臓が果たす役割の中で最も重要なのは、体の中で発生した毒素を尿(おしっこ)から体外へ排出する事です。このように、主に尿からしか体の外へ排出できない毒素を、「尿毒素」と呼び、尿毒素を排出する能力が低下する現象を腎機能障害と呼びます。尿毒素がある程度溜っても人間の体は耐えられるようになっています。しかし、ある一線を越えて尿毒素が体に溜った場合、透析又は腎移植が必要です。透析や腎移植を受けていたる患者さん達に、1日でも長くお元気で生きていただく治療技術も勿論重要ですし、我々腎臓内科医は日々その技術を磨いています。しかし、一人でも多くの患者さんが透析や腎移植を受けなくても済む人生を送れるようにする治療が昨今ますます重要となっています。

人間の腎臓の機能は生後成長を続け、概ね20歳頃に人生におけるピークを迎えます。そこから、加齢と共に腎臓の機能も徐々に低下し、計算上120～140歳になると大多数の方が透析や腎移植が必要なレベルにまで腎臓の機能が低下するとされています。しかし、実際にはそこまで長寿な方はいらっしゃいませんので、あまり大きな問題にはなりません。これが健常な方における、腎臓の機能の推移となります。加齢による腎臓の機能の低下を食い止める術は、残念ながらありません。

慢性腎臓病について

加齢以外の原因でも腎臓の機能は低下してしまいます。腎臓の機能、つまり尿毒素を体の外に排出する機能が急激に低下する現象を“急性腎障害”と呼びます。その一方で、腎臓の機能が徐々に低下する現象を“慢性腎臓病”と呼びます。急性腎障害を来した場合に、通常は自覚症状が現れるので、患者さんご自身がお体の異変に気が付かないという事態はほぼありません。しかし、慢性腎臓病に関しては相当程度進行しても自覚症状はほぼ出現しません。慢性腎臓病を発見するには、採血や尿検査を受けていただく必要があります。

最後に、慢性腎臓病の治療についてです。慢性腎臓病患者さん達の中でも、腎臓の機能が低下する速度が速い集団が存在する事が分かっております。主に糖尿病や高血圧を有する方が、それに該当します。腎臓の機能が低下する速度を穏やかにする作用を持つ薬剤が複数存在し、それらを組み合わせて治療する事でさらに効果が高まる事も最近分かってきております。皆さん、是非お声がけください。



整形外科

整形外科部長 金井 宏幸

整形外科は、体の動きに関係する臓器である運動器診療の専門家です。整形外科の担当する範囲は、関節疾患、外傷、手の外科、リウマチ、スポーツ障害、脊椎など広範囲に及びます。

当科では現在7名の医師(全員が整形外科専門医です)が、診断・治療にあたります。とくに关节センター(主に膝・股関節)、四肢外傷センター、手の外科センターの3分野には力をいれています。いずれの分野でも、十分な説明、低侵襲、高い安全性を心掛け、早期離床・早期機能回復に努めます。

また、急性期病院として手術を要する疾患・外傷を主たる治療対象としていますので、骨粗鬆症など慢性疾患で、薬物療法の対象患者さんで病状の安定された方は、近隣の医療機関と連携を図って治療を行っています。

思いやりの気持ちをもって医療に取り組むためには、患者さん、同僚、スタッフとのコミュニケーションを大事にすることが非常に重要であると考えています。「ここで診てもらい、治してもらってよかった」と満足していただき、そして笑顔を取り戻す医療提供を目指しています。

以下に手術前後の状態の変化をしめす代表例を載せています。

関節センター

変形性股関節症



痛み・関節が動きにくい
歩行がつらい
旅行や外出もできない

四肢外傷センター

大腿骨転子部骨折



大腿骨の付け根が折れて
曲がっている
痛くて座ることもできない

手の外科センター

デュピュイトラン拘縮



手のひらにこぶ
指がのびない
物を握りにくく



痛みがない
関節がよく動く
日常生活に支障がない



骨の形を直しチタン合金の
芯棒を入れて補強
訓練で歩けるようになった



手のひらがすっきり
指がのびた
日常生活に支障ない

ろうさいの森

Vol. 177 6月号



撮影：病院長 森田 明夫

第1回ひだまり「健康・楽しみ・交流 の場」を開催しました

令和7年5月20日に、『健康・楽しみ・交流』をテーマに、誰でも集まれる場所『ひだまり』の第1回目を開催しました。当院のリハビリスタッフによる「いつまでも若々しくいるための健康体操」をお越しいただいた参加者の皆様と行いました。

～次回開催～
「自分の体力を知ろう！身体測定」

日 時：6月17日（火）
15:30～16:30
場 所：東京労災病院 3階 大会議室
参加費：無料



京急グループと健康推進の取組を行っています

京急グループと東京労災病院で連携して健康推進の取組を行っています。東京労災病院は、これまでも京急グループと連携して地域の健康増進の普及を目指した活動を行ってきました。

今回は、脳神経外科医である森田院長の監修のもと初のコラボレーション弁当を作りました。今後の取組も引き続きお知らせしていきます。



出張講座を行いました

令和7年5月16日（金）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の診療放射線技師が「認知症のための核医学検査」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様におかれましては、誠にありがとうございました。

～次回開催日程～

日 時：6月12日（木）14:00～
演 目：「糖尿病ってどんな病気」
場 所：大森南図書館
参加費：無料

消化器内科

院長補佐 消化器内科部長 西中川 秀太

消化器内科は消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸)と肝臓、胆嚢、脾臓などの多くの臓器を診る診療科です。疾患は胃潰瘍、腸炎や肝炎、胆嚢炎などの良性疾患から胃がん、大腸がん、脾がんなどの悪性疾患まで多岐にわたります。消化器疾患全般にわたって安全性を重視しつつ、迅速で適切な対応を心がけています。

当科では5名の学会専門医と2名の専攻医が外来・入院・救急・内視鏡検査・超音波検査など、広く担当しています。新たな機器・手技の導入を積極的に行い、定期的な勉強会で知識のアップデートを行っています。

また、消化器外科や放射線科などの他科との連携も重要になります。当院では消化器内科と消化器外科の連携を密にするために「消化器センター」を設置し定期的にカンファレンスを行い治療方針を決定しています。

消化器疾患は腹部の違和感などの言葉で表しにくい症状や、便通異常など経過の長い症状で困ることも多い領域ですので、気になることがありましたら消化器内科を受診ください。

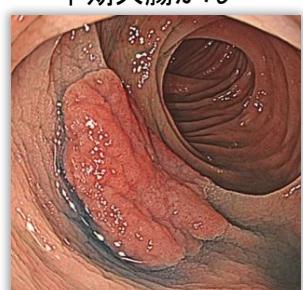
2023年に最新の内視鏡システムを導入しました。
鎮静内視鏡を希望される患者様が増えており、
検査後の安静スペース、モニターを増設し対応しています。

また、経鼻内視鏡を導入しており、苦痛が少ないため大変好評をいただいているます。



大腸がんについて

早期大腸がん



- ・大腸がんは年々増加しており、部位別死亡数は、男性では肺がんに次いで2位、女性では1位です。
- ・予防法は確立していませんが、食事療法(カロリーを控える、食物繊維を多くとる、アルコールを控えめにする)と適度な運動が有効とされています。
- ・早期発見、早期治療を行えば予後は比較的良好です。
Stage0、Stage1の大腸がんの5年生存率は90%以上です。

- ・早期発見には大腸癌検診(便潜血検査)が有用です。
検診で陽性になったら、大腸内視鏡検査を受けましょう。
- ・それ以外にも
 ①便に血が混じる。②血液検査で貧血がある。③便通異常がある。
 ④ご家族に大腸がんの方が多い。⑤体重が減っている。
 これらに当てはまる方も大腸内視鏡検査を受ける必要があります。
 ご心配な症状があれば消化器内科を受診ください。



外科・消化器外科

院長補佐 消化器外科部長 小林 隆

『消化器外科』……どういった病気を診る“外科”か、みなさんご存じですか？

おおまかにいうと『消化器外科』とは消化器内科と同様に消化に関わる腹部の臓器の病気を中心に診療をおこなう診療科です。

あつかう臓器も消化器内科と同様、**食道から胃、小腸、大腸、肛門**といった食べ物の通り道である消化管に加えて、**胆のうやすい臓**といった食べ物の消化に関わる臓器、栄養を蓄え身体の毒素を解毒する役割をもつ**肝臓**まで幅広いです。

さらに、**鼠径ヘルニア**や**痔**など必ずしも“消化”にかかわらない病気もあつかっています。

具体的には

- ・胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆のう/胆管がん・すい臓がん、といった**悪性疾患**
- ・胆石/胆のう炎・急性虫垂炎・鼠径ヘルニア・腸閉塞・痔核/痔ろう、といった**良性疾患**や**腹部の救急疾患**

これらの疾患を主に手術で治療するのが消化器外科になります。また、手術だけではなく、患者さんの病態に応じて**抗癌剤など薬物治療**や**放射線治療**も様々な診療科と一緒に協力しています。

ご自身や身の回りの方で「手術を受けた方がよいのか」、
それとも「経過観察でよいのか」といったことで悩まれている方
いらっしゃたら、いつでも我々にご相談ください。

患者さんの希望を伺いながら、最も良い対応を一緒に考えていきましょう！



例えば…こんな時は『消化器外科』に相談してください！

- 脂っこい食事をすると背中が張ってきたり、みぞおちから脇腹が重苦しくなる
 - 人間ドックや健康診断で胆石を指摘されたけど痛くないのでそのままにしている
 - 以前、急性虫垂炎といわれたけど抗生素で治ったのでそのままにしている
 - トイレにいってお尻を拭いたら血が付いたけど、しばらくしたら血がつかなくなったので“痔”だと思ってそのままにしている
 - なんとなく足の付け根が膨らんでいるような気がする
- ⇒ そのままにせず、われわれ消化器外科にご相談ください！
- 優しい外科医が笑顔でご相談にのります



ろうさいの森

Vol. 178 7月号



撮影：病院長 森田 明夫

第2回ひだまり「健康・楽しみ・交流 の場」を開催しました

令和7年6月17日に、『健康・楽しみ・交流』をテーマに、誰でも集まることのできる場所『ひだまり』を開催しました。第2回目は「身体計測」「ひだまり体操・運動レクチャー」を行いました。サルコペニア（筋肉量の減少）やフレイル（加齢に伴う心身の虚弱）を予防することを目的に以下の項目を測定しました。

- ・嚥下機能（飲み込む力の確認）
- ・下肢筋力（下腿周囲径による評価）
- ・握力（握力計による筋力測定）
- ・認知機能（簡易テストによるチェック）

多くの方に参加いただき大変賑わいました。
次回もぜひお越しください。

～次回開催日程～

「正しい水分補給で熱中症予防」
「ころころビー玉で楽しいうちわづくり！」

日 時：7月15日（火）

15:30~16:30

場 所：東京労災病院 3階 大会議室

参加費：無料



出張講座を行いました

令和7年6月12日（木）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の糖尿病看護認定看護師・糖尿病療養指導士による「糖尿病ってどんな病気？」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様におかれましては、誠にありがとうございました。

～次回開催日程～

日 時：7月10日（木）14:00～

演 目：「糖尿病と注射薬
～薬剤師として伝えたいこと～」

場 所：大森南図書館

参加費：無料

SUMMER FESTA in Heiwajima に参加します

令和7年8月23日（土）・24日（日）に平和島BIG FUNにて開催される「SUMMER FESTA in Heiwajima」に初めて参加します。

当院は「AED体験」「救護所」等を予定しています。皆さま、是非お越しください。詳細は来月お知らせいたします。



病院見学会を開催します

～開催日程～

日 付：9月6日（土）

内 容：病院紹介・見学、こども食堂、キッチンカー、フードパントリー等

参加費：無料



脳神経内科

院長補佐 脳神経内科部長 三品 雅洋

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気を担当します。脳梗塞・アルツハイマー型認知症・パーキンソン病・多発性硬化症・ギランバレー症候群・封入体筋炎などがそれに該当します。

昔は治せない病気ばかりでした。しかし数年で治療法が変わりました。脳梗塞に対する血栓除去療法、球脊髓性筋萎縮症に対する男性ホルモン抑制療法、ファブリー病・ポンペ病に対する酵素補充療法が実現しました。アルツハイマー型認知症・パーキンソン病や多発性硬化症、重症筋無力症、片頭痛の治療薬も新たに誕生しました。リハビリテーションや介護の方法も進歩しました。認知症患者の症状悪化も、薬以外の方法で軽快できることがあります。

私たちは、東京労災病院の全スタッフだけでなく、近隣のクリニック、リハビリテーション病院、薬局、介護施設、ケアマネージャー、行政、企業と連携し、これら難病に立ち向かいいます。

認知症について

脳のダメージによりいったん正常に発達した知能が低下した状態を認知症と言います。症状は物忘れ・日時がわからない・以前と違い怒りっぽくなつた・道に迷うなどがあります。

アルツハイマー型認知症が有名ですが、下図のようにたくさんの疾患があります。レヴィ小体型認知症、嗜銀顆粒性認知症、進行性核上性麻痺など様々な疾患があります。特に、甲状腺機能低下症・ビタミン欠乏・感染症など治せる病気は見逃してはいけません。知能検査のほか、採血・CT/MRI・脳血流SPECTなどの検査を実施します。治せない疾患でも、薬の選択、介護の方法などで症状の悪化を防ぎます。症状が軽いけれども認知症かどうかを知りたい場合でも受診してください。

運転免許の更新で認知症が疑われた方の診断を明確にするための診察も可能です。

パーキンソニズムを呈する疾患

認知症を呈する疾患

変性疾患

前頭側頭葉変性症	大脳基底核変性症	筋萎縮性側索硬化症
嗜銀顆粒性認知症	進行性核上性麻痺	脊髄小脳萎縮症 淡蒼球ルイ体萎縮症
Frontotemporal dementia with parkinsonism-17		Neuroferritinopathy
パントテン酸キナーゼ関連神経変性症	脆弱X関連振戦・失調症候群	

内科疾患

甲状腺機能低下症	ウイルソン病
副甲状腺機能亢進症	感染
ペーチェット病	セルロプラスミン欠損症
ビタミンB1/12欠乏症	梅毒 AIDS 脳炎

外傷

脳挫傷
慢性硬膜下血腫

中毒・薬剤

アルコール中毒	睡眠導入剤
向精神薬	抗コリン薬
制吐薬	抗うつ薬

脳卒中

血管性認知症
CADASIL
CARASIL

その他

正常圧水頭症
多発性硬化症
脳腫瘍

三品雅洋：CI研究 42(3-4) 147-152, 2020

脳神経外科

脳神経外科部長 加藤 宏一

脳腫瘍の手術と術後加療

「守られている脳」

脳は生物にとって重要な臓器であり頭蓋骨に守られています。脳は頭蓋骨に囲まれた空間にあるため、脳腫瘍や脳出血など正常では存在しないものが生じると、頭蓋内圧が上がり正常な脳を圧迫し損傷させます。重症では脳ヘルニア状態になり死亡するため、病変を除去し頭蓋内圧を下げる手術が必要になります。

「脳を守る」

脳腫瘍の摘出手術では頭蓋骨内の圧を低下させ、正常な脳や神経を守ることが目的になります。手術前には脳機能MRIで運動に関わる神経走行を同定し、3D-CT、脳血管造影検査などの結果を組み合わせて、脳の機能を維持するための詳細な手術プランニングを行います。できるだけ脳腫瘍を摘出し、正常脳の機能を維持させるための安全な開頭やアプローチ法、摘出操作が重要になります。

当院では最新のナビゲーションシステム、脳神経モニタリング装置、術中O-arm(CT)を導入し安全で確実な手術を行っています。手足の動き、顔や舌の動き、視覚、聴覚、脳幹の反応などを手術中に調べることができます。

脳腫瘍の病理診断結果により、手術後は放射線治療、化学療法が必要になることがあります。放射線治療装置もTrueBeamという脳の病変に線量を集中させ、正常脳への影響を少なくする新しい機器を使用しています。化学療法も現在は通院で行っています。副作用が少なく、日常生活や仕事に支障が生じないよう薬剤調整を行っています。

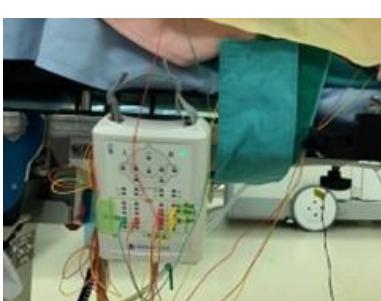
手術風景



① O-armを使用した術中CT、ナビゲーション



③ 顕微鏡下の手術



② 術中神経モニタリング

ろうさいの森

Vol. 179 2025年8月号



えぞにゅう@礼文島 病院長 森田 明夫 撮影



第3回ひだまりを開催しました

7月15日（火）ひだまり「健康・楽しみ・交流の場」を開催しました。

■ 食事管理で熱中症を予防しよう

当院の管理栄養士より、水分補給だけでなく、塩分や栄養バランスを意識した食事の重要性や、暑い時期でも無理なく食べられるメニューの工夫について紹介がありました。

■ ビー玉アートで彩るオリジナルうちわ作り

絵の具をつけたビー玉を転がして模様を描く「ビー玉アート」で、オリジナルのうちわを作成しました。

～次回開催日程～

「肩Reborn(肩のお話し)」
「楽に動かそう！肩まわりの体操」

日 時：8月19日（火）

15:30～16:30

場 所：東京労災病院3階 大会議室

参加費：無料 お気軽にご参加ください。



出張講座を行いました

7月10日（木）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の薬剤師による「糖尿病と注射薬～薬剤師として伝えたいこと～」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



～次回開催日程～

日 時：8月7日（木）14:00～

演 目：「転倒予防 今日からできる
転ばないカラダづくり」

場 所：大森南図書館 参加費：無料

ホスピタルアートを 展示しました

大森第四小学校、大森第一中学校の生徒さんが新たに制作した絵画、水墨画、鉛筆デッサン、習字を展示しております。1階総合受付前の階段壁面、2階廊下に展示しております。是非ご鑑賞ください。



SUMMER FESTA in Heiwajima に参加します

8月23日（土）・24日（日）にBIG FUN平和島にて開催される「SUMMER FESTA in Heiwajima」に参加します。

心肺蘇生、AED体験や救護所の設置を予定しております。皆さま、是非お越しください。



病院見学会を開催します

日 時：9月6日（土）10:00～14:00

内 容：院長・脳神経内科部長による講演

病院紹介・見学、こども食堂

キッチンカー、フードパントリー等

参加費：無料

呼吸器内科

呼吸器内科部長 河野 正和

当科の紹介 呼吸器内科は主に肺・気管支からなる呼吸器を対象にしており、呼吸器外科と共に呼吸器センターとして診断・治療を行っています。総合内科専門医・呼吸器内科専門医4名、呼吸器内視鏡・睡眠学会専門医、がん治療認定医、専攻医等多数の医師が在籍しており、日々の回診やカンファレンスを通じて情報共有と知識取得に努めています。

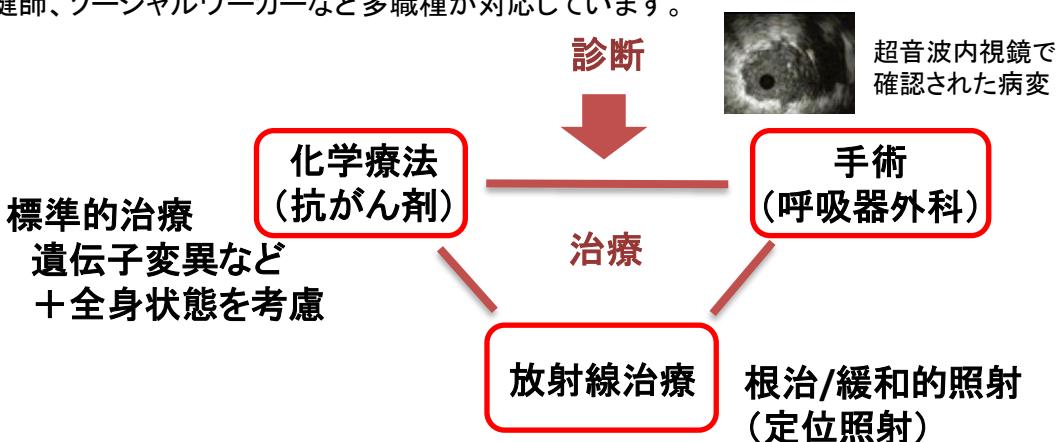
当科の特色 精密検査が必要とされたり、改善しない咳や息切れなどの症状でご紹介・受診されることが多いと思いますが、適切な診断と対応を目指しています。

- ・**胸部異常陰影(健診など)**: 受診当日に高精度CTを施行し、ご説明するよう努めています。
- ・**肺がんまたは中皮腫等の悪性腫瘍**: 城南地区唯一の東京都がん診療連携協力病院(肺)として、肺がんやその他の悪性腫瘍の診断・治療に外科や放射線科と連携し対応しています。
- 呼吸器内科の治療は主に化学療法(抗がん剤)が中心になります。診断治療は日進月歩ですが遺伝子検査結果、分子標的薬・免疫チェックポイント薬の選択など、その時点でのコンセンサスと個々の状況を総合的に考えた治療を心がけています。放射線治療は最新の機器が導入されており、定位照射も可能で根治・緩和何れの治療にも対応しています。
- ・**睡眠時無呼吸症候群**: 火・水・金曜日午後には専門外来を設置し、ポリソムノグラフ検査をはじめとする各種検査、治療としてのCPAP導入等のみに留まらず、肥満症など合併症への「気づき」になる大切な契機と考えています。特に職業運転手の方々は事前の外来受診なく入院検査できるよう考慮しますので、企業担当者または主治医より医療連携室にご連絡ください。
- ・**気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)**: 従来の吸入薬を中心とした治療の他、各種抗体薬を導入しています。
- ・**間質性肺疾患**: 抗纖維化薬(ニンテダニブ、ピルフェニドン)の投与等を行っています。

また適切な医療が受けられるよう、地域の医療機関との連携を推進しております。

肺がんの診断・治療について

肺がんの診断・治療は呼吸器内科だけではなく、呼吸器外科・放射線科と連携して行っています。気管支鏡検査は超音波や適切な鎮静を併用し、確実、安全かつ負担の少ない診断に努めています。また症状の緩和や仕事との両立(就労支援)についても、看護師、薬剤師、栄養士、保健師、ソーシャルワーカーなど多職種が対応しています。



呼吸器外科

呼吸器外科部長 穴見 洋一

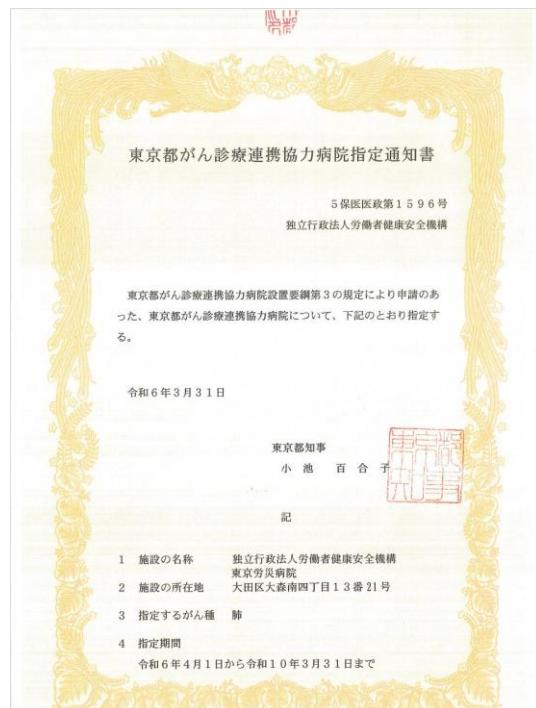
呼吸器外科とは：

肺の外科または心臓・大動脈以外の胸の外科です。病気は多岐にわたります。肺癌、大腸癌等から肺に転移した癌、気胸、膿胸、縦隔腫瘍や外傷、多汗症、さらには肺の先天的な疾患など、様々な胸部の疾患に対して、外科的に治療していく診療科です。

当院は城南地区の一般臨床病院で唯一、肺癌での東京都がん診療連携協力病院に選ばれています。

最近、小さい肺癌に対しては、従来よりも小さく肺を切除する方法が標準治療として認められましたので、当院でも結局的に肺の機能を温存する手術に努めています。

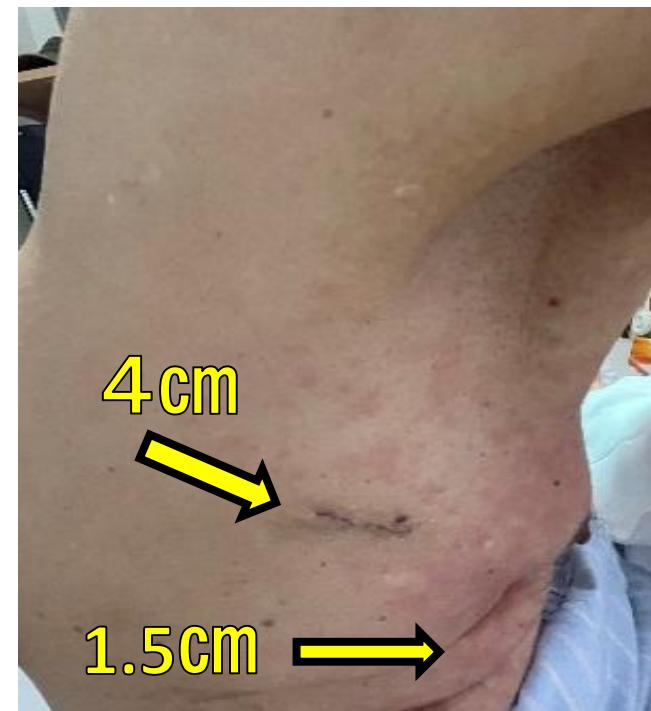
当院では呼吸器外科、呼吸器内科、放射線治療科が「呼吸器センター」として合同で会議を行い、最適な治療戦略を提案しています。



胸腔鏡下手術

肺癌の手術の創

- 当院では3~8cmの創と1.5cmの創の2か所の創を用いて、胸腔鏡カメラとマジックハンドのような道具を使って手術を行っています。
- この方法では手術中の出血時の対応も迅速・安全に行えます。
- 現在、ほぼすべての手術は胸腔鏡下手術です
- 術後早期離床が可能で、手術翌日から歩けます。
- 手術翌日の昼食から食事も再開されます。
- 術後1週間以内での退院も可能です



ろうさいの森

Vol. 180 2025年9月号



プラハの市場にて 病院長 森田 明夫 撮影

第4回ひだまりを開催しました

8月19日（火）ひだまり「健康・楽しみ・交流 の場」を開催しました。日常生活で取り入れやすい「五十肩予防体操」を行いました。体操は下記のQRコードより視聴できます。

～次回開催日程～

「ひだまり秋の大運動会」
『手の運動』『足の運動』『頭の運動』
の3種目運動会を開催します。

日 時：9月19日（火）
15:30～16:30

場 所：東京労災病院3階 大会議室

参加費：無料 お気軽にご参加ください。



出張講座を行いました

8月7日（木）に大森南図書館にて当院の理学療法士による出張講座を行いました。

～次回開催日程～

日 時：9月11日（木）14:00～

演 目：「冬に向けたお肌のケア」

講 師：皮膚・排泄ケア認定看護師

場 所：大森南図書館 参加費：無料



平和島スターボウルにて 健康講座(整形外科)を開催しました

8月18日（月）に平和島スターボウルにて「健康講座」を行いました。当院整形外科の金井部長による「“ひざの痛み”との付き合い方」、齊木副部長による「骨粗鬆症防いで元気に長生き」について講演を行いました。



外来担当医表は裏面へ

独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院
〒143-0013大田区大森南4-13-21 TEL03-3742-7301

SUMMER FESTA in Heiwajima に参加しました

8月23日（土）・24日（日）にBIG FUN平和島にて開催された「SUMMER FESTA in Heiwajima」にAED体験と救護室として参加しました。

AED体験は2日間で延べ208名と多くの方々に体験していただきました。



京急グループコラボ弁当 第2弾

京急グループと東京労災病院のコラボ弁当第2弾が発売されました。

2種類の秋のしみじみ身体想い弁当を是非お試しください。



病院見学会を開催します

7年ぶりに病院見学会を開催いたします。今回は他施設とのコラボとなっております。是非皆様お越しください。

日 時：9月6日（土）10:00～14:00

内 容：院長・脳神経内科部長による講演
病院紹介・見学、こども食堂、
キッチンカー、フードパントリー等

参加費：無料

詳細は[こちら](#)



小児科

小児科部長 直井 和之

当科では、お子さんの感染症、アレルギー疾患、呼吸器疾患、腎疾患などに対する一般診療および乳児健診、予防接種、育児相談など幅広く対応しております。2020年4月より小児アレルギー専門医を迎えて、食物アレルギーの負荷試験やアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法などを外来にて積極的に行なっております。神経疾患や心疾患など専門性の高い疾患に対しては当院で可能な検査(CT、MRI、超音波など)を効率よく行なったうえで適時高次医療機関へご紹介しております。

また、眼や耳・鼻、皮膚等に関してより専門的な診察が必要な際は、総合病院である強みを活かして、各科と協力して診療しております。

2022年2月で当院の産科診療は終了しましたが、今まで同様出生前の育児相談等を行うペリネイタルビジットや他院でご出生されたお子さんたちの出生直後からの診療は引き続き行なっております。

お子さんのご病気、子育て等、普段の生活の中で気になることがございましたらご相談ください。お子さんとそのご家族に親しみと信頼を持たれるような小児診療を心掛けて参ります。

舌下免疫療法について

アレルギー性鼻炎には、主に薬物療法(対症療法)とアレルゲン免疫療法の2つの治療法があります。薬物療法は、症状を起こす物質の働きや鼻の中の炎症をおさえて症状を和らげます。アレルゲン免疫療法は、体をアレルゲンに慣らして、症状を和らげたり、根本的な体質改善が期待できる治療法です。現在国内で使用できる治療薬は、スギ花粉症の場合はスギ花粉を、ダニアレルギー性鼻炎ではダニのアレルゲンを含む2つです。アレルゲン免疫療法の中でアレルギー反応の出現の可能性が低い舌下免疫療法を当院でも行なっております。

適応年齢: 舌の下に薬剤を入れ、1分間飲み込みます、その後内服できる5歳以上です。



治療開始できる期間:

スギ花粉症:スギ花粉が飛散していない7月から12月の間です。

ダニアレルギー性鼻炎:1年中いつでも開始できます。

治療効果及び期間:早い時期に治療開始された場合は、次の花粉症のシーズンに効果が認められる方がおります。治療期間はいずれも3年の継続が目安となっております。

注意点(副反応):開始時にアレルギー反応が出る可能性がございますので、注意深く観察できる院内で治療を開始させていただいております。

例年春先からのスギ花粉症の症状にお悩みのお子さんに対して、次のスギ花粉のシーズン前に、舌下免疫療法を試してみてはいかかでしょうか。ご希望の方は当科へご相談ください。



眼科

眼科医師 大矢 紘輔

眼科は、地域の皆さまの“目の健康”を守ることを使命とし、最新の知見と機器を取り入れた診療を行っています。

当院では、白内障・緑内障・加齢黄斑変性といった加齢に伴う病気をはじめ、糖尿病網膜症・高血圧性網膜症・網膜血管閉塞症など生活習慣病に関連した疾患、ドライアイ・眼精疲労といった日常生活に身近な目の不調まで幅広く診療を行っております。

特に白内障については、これまで多くの方が当院で手術を受けられており、患者様一人一人に合わせた安全で丁寧な治療を心がけています。

そのうえで患者さまが安心して診療を受けられるよう、分かりやすい説明と丁寧な対応を大切にしていますので、目に関するお悩みがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

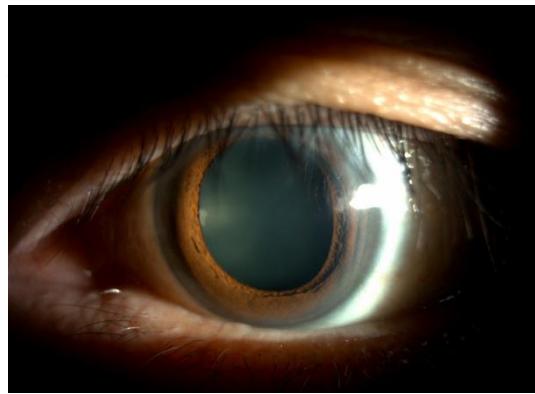
白内障の手術で認知症のリスクを下げる可能性

白内障とは、「目の中のレンズ（水晶体）が濁って、見えにくくなる病気」です。年齢を重ねるにつれて多くの人に起こり、見え方がぼやけたり、眩しく感じたりするのが特徴です。

白内障は手術で濁ったレンズを取り替えることで視力を回復させることができます。



白内障



正常水晶体

2022年、アメリカの研究で、白内障手術を受けた高齢者は、受けていない人と比べて認知症になるリスクが約30%低いことがわかりました。これは、世界的に信頼されている医学雑誌「JAMA」に掲載された研究結果です。

よく見えるようになると脳への刺激が増えたり外出や交流がしやすくなったりすることが脳の健康を保つ要因と考えられています。

白内障は放っておくと生活の質を下げるだけでなく、将来的な認知機能にも影響するかもしれません。見えにくさを少しでも感じたら早めに眼科を受診しましょう。

出典:JAMA Internal Medicine(2022年)

研究者:Cecilia S.Lee,Laura E.Gibbons他

<https://jamanetwork.com/journals/jamainternalmedicine/fullarticle/2786583>

ろうさいの森

Vol. 181 2025年10月号



ふるさと浜辺公園と秋の雲 病院長 森田 明夫 撮影

病院見学会を開催しました

9月6日（土）「病院見学会」を開催しました。
今回、7年ぶりの開催となりました。

ヘリポート見学、看護師体験、手術室見学、森田院長と三品脳神経内科部長による特別講演会など、普段体験することのできない病院にまつわるブースが設けられました。

また、大森東特別出張所、大森東特別出張所包括支援大森東社会福祉協議会、JOBOTAとフードパントリーを共同で行いました。

その他にも、こども食堂moil、大森南図書館による本の読み聞かせなど、イベントがもりだくさんの病院見学会となりました。

約250の方々にお越しいただきました。

ご来場いただいた皆様ありがとうございました。



院内コンサートを開催します

10月3日（金）に「院内コンサート」を開催します。ぜひお越しください。

日 時：10月3日（金）

15:00～16:00



場 所：1階 総合待合前（無料）

演奏者：トリトン弦楽四重奏団

プロタンゴ歌手 長浜 奈津子

第5回ひだまりを開催しました

9月16日（火）、通いの場「ひだまり」を開催しました。



手・足・頭の運動3種目の「ひだまり秋の大運動会」に、26名の方にご参加いただきました。

～次回開催日程～

新井副院長（泌尿器科部長）解説

「男女ともに悩んでる？尿漏れの世界」

リハビリスタッフによる

「尿漏れ予防体操」

日 時：10月21日（火）

15:30～16:30

場 所：3階 大会議室

参加費：無料 お気軽にご参加ください



いつつのわふれあい祭り

今年度も大森東地区自治会連合会が主催の「第12回いつつのわふれあい祭り」に参加いたします。ぜひお越しください。

日 時 10月19日（日）

10:00～15:00

場 所 森ヶ崎緑華園芝生広場、大森東特別出張所
森ヶ崎交通公園、テクノFRONT 森ヶ崎

★無料健康相談

★白衣試着体験

★骨密度測定

★AED体験

★健康体操「ひだまり体操」の実演



脳神経移植科

脳神経移植科部長 浪岡 愛

脳神経移植科とは：

脳神経の損傷・疾患に対する自家骨髓間葉系幹細胞**移植**療法から名付けた診療科で、主に自家骨髓間葉系幹細胞移植(ステミラック注)を用いた脊髄損傷の再生医療を行っています。

当科の特徴：

ステミラック注は患者様本人の骨髓中の間葉系幹細胞を本人の血清を用いた培地で培養し、点滴で投与する治療です。大きな手術も免疫抑制剤も必要としません。当院は全国で13か所の投与施設の一つとなります。現在ステミラック注は限定的保険承認製品であり、その有効性・安全性について市販後調査が行われています。

当科の特色として、医師が脳神経外科専門医+リハビリテーション科専門医+再生医療認定医を取得しており、3つの専門資格を併せ持っております。これにより、ただ再生医療を行うだけではなく、再生医療の効果を最大限に引き出すような急性期の全身管理を行いながら積極的なりハビリテーション治療が行えております。

2022年12月に当院で第1症例の投与が開始されてからまだ日が浅いですが、関東のみならず甲信越・中部・西日本からも当院を希望された患者様が転院されるようになりました。

投与症例数もステミラック注の開発元である札幌医科大学に次ぐ症例数で、2024年度以降日本でも上位の症例数で投与を行っております。

脊髄損傷とその治療について

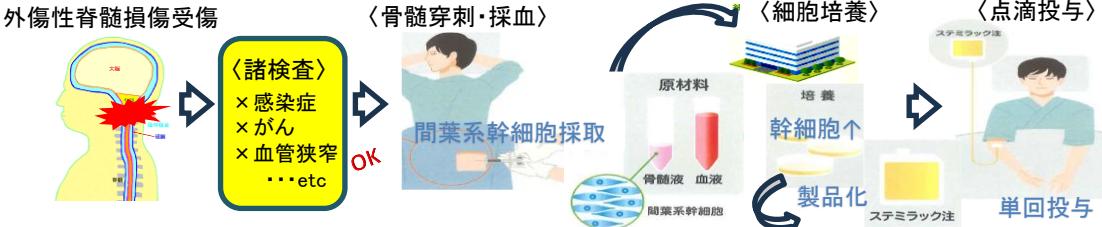
脊髄損傷は転倒・転落・墜落・交通事故等で起こるので、誰でもなる可能性があります。

手足の麻痺や内臓の機能低下(呼吸障害・徐脈・低血圧・膀胱直腸障害等)を引き起こし、重症の場合は人工呼吸器やペースメーカーがないと生命維持が困難となります。

従来の治療では脊髄損傷は良くならないとされ、重症の方は回復期のリハビリテーション治療の対象とならず、自宅に帰れずに療養型病院や施設で余生を過ごされていました。

ステミラック注はリハビリテーション治療の効果を底上げすることを期待して投与が行われますので、積極的なりハビリテーション治療が必要です。また、脊髄損傷受傷から31日以内に骨髓液を採取しなければいけないプロトコルのため、受傷後すぐに当院へ主治医を介してご連絡頂き転院調整をする必要があります。受傷後1か月以内に当院転院、おおよそ2か月半ぐらいの所で投与が行われ、その後回復期リハビリテーション病院での訓練という流れになります。

現在は市販後調査中であり、ステミラック注の効果については調査結果公表にてお知らせ予定です。



中央放射線部

中央放射線部長 林 美智子

中央放射線部は、診療放射線技師23名（男性17名、女性6名）で構成されています。診療放射線技師は、医師や歯科医師の指示のもと、X線撮影、マンモグラフィ、CT、MRI、ラジオアイソotope（RI検査）、マンモグラフィや放射線治療などを行う、現代の医療には不可欠な専門職です。スタッフはさまざまな資格を有しており、『肺がんCT検診認定施設』や『マンモグラフィ検診施設・画像認定』の取得にも貢献しています。

皆さまが安心して検査・治療を受けられるよう、スタッフ一同、笑顔で丁寧な対応を心がけています。

あなたの骨は大丈夫？（骨密度検査について）



骨粗しょう症は骨量（骨密度）が減少し骨の質が低下することで骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気です。**健康寿命にも大きく影響**を及ぼします。

骨密度検査は、超音波を使用する「QUIS法」とX線を用いる「DEXA法」などがあります。「QUIS法」はかかとの骨に超音波を当て、その伝わる速度などから骨密度を測定する方法です。放射線被ばくがなく検査時間も短いため検診などで広く利用されていますが、精度に不十分な場合があり、骨粗しょう症の確定診断には推奨されません。

「DEXA法」は骨粗しょう症の診断基準として用いられる検査方法で、2種類の異なるエネルギーのX線を使い、腰椎（腰の骨）や大腿骨（足の付け根）などの骨密度を測定します。信頼性が高く、将来の骨折リスク評価にも優れています。

当院では、「DEXA法」を用いた装置で骨密度検査を実施しています。

大田区骨粗しょう症検診は「DEXA法」で実施しています。今年度の対象の方は、この機会に骨密度をぜひチェックしてみてください。

また、当院は地域のイベント「いつつのわふれあい祭り」や「OTAふれあいフェスタ」に参加し、超音波を用いた骨密度測定を行っています。骨密度が気になる方は、お気軽にご参加ください。



骨粗しょう症が疑われる人

- 些細なことで骨折したことがある
- 20代と比べて身長が4cm以上縮んだ
- 背中が丸くなったり、強い腰痛があった



骨粗しょう症になる可能性が高い人

- 家族が太もの付け根を骨折したことがある
- 経口ステロイドを3ヶ月以上使用していた
- 糖尿病・慢性腎臓病・関節リウマチなど治療中
- 喫煙や飲酒の習慣、運動不足
- やせ型や、過去に極端なダイエットをした
- 中年期以上の女性、高齢男性など

ろうさいの森

Vol. 182 2025年11月号



森ヶ崎緑華園の秋の花 病院長 森田 明夫 撮影

院内コンサートを開催しました

10月3日（金）に当院にて、「院内コンサート」を開催いたしました。「トリトン弦楽四重奏団」（大森室内楽愛好会）の方々と長浜奈津子さん（プロタンゴ歌手）にお越しいただき、タンゴ・ジェラシー、ラ・クンパルシータ、シューベルト：弦楽四重奏曲第13番ほか、1時間ほど素敵なお演奏・歌声をご披露頂きました。



いつつのわふれあい祭りに参加しました

10月19日（日）に大森東地区自治会連合会が主催する「第12回いつつのわふれあい祭り」に参加しました。「無料健康相談」「白衣試着体験」「骨密度測定」「AED体験」のブースを設け「救護所」としても活動しました。また、メインステージではリハビリスタッフによる健康体操「ひだまり体操」の実演も行いました。

当日は、およそ170名の方々が当院のブースを訪れ、大いに盛り上りました。



第6回ひだまりを開催しました

10月21日（火）、通いの場「ひだまり」を開催しました。新井副院長（泌尿器科部長）解説の「男女ともに悩んでる？尿漏れの世界」、リハビリスタッフによる「尿漏れ予防体操」を行いました。

～次回開催日程～

「誤嚥性肺炎にならないための正しい口腔ケア」

日 時：11月18日（火）
15:30~16:30

場 所：3階 大会議室

参加費：無料 お気軽にご参加ください

外来担当医表は裏面へ

羽田空港での航空機事故総合訓練に参加しました

10月23日に羽田空港で空港機事故を想定した総合訓練が行われ、各機関から1,026名、車両169台が参加しました。

当院からも大森医師会とともに救助チームが参加し、重症傷病者（赤）エリアで診療を担当しました。

羽田空港にもっとも近い災害拠点病院として有事への準備を怠らないようにしています。



OTAふれあいフェスタ2025

今年度も大田区主催の「OTAふれあいフェスタ2025」に参加いたします。今回は新たに「AED体験」も実施します。ぜひお越しください。

日 時 11月1日（土）
10:00~16:00
場 所 平和島公園
(太陽のエリア)

内容
・無料健康相談
・白衣試着体験
・骨密度測定
・AED体験

年末の診療について

年末年始休暇については、12月27日から1月4日まで9連休となりますが、**12月29日（月）**は、通常通り診療を行うこととしたしまして、お知らせします。詳細は来月号をご覧ください。

ろうさいの森 地域紹介コーナー

東京労災近隣の散歩紹介：森ヶ崎緑華園
病院の裏手400mくらいのところに森ヶ崎緑華園という大田区立の公園があります。季節の花を手入れよく植栽しており、色々な花が咲き果実が実っています。診療の後、バスの待ち時間にでも、すこし散歩してみてはいかがでしょう。



外来担当医表は裏面へ

独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院
〒143-0013大田区大森南4-13-21 TEL03-3742-7301

発行人 木村 幸司 編集人 饗庭 虹萌

R7.11.1発行

糖尿病・内分泌内科

糖尿病・内分泌内科部長 桑原 公一郎

東京労災病院の糖尿病・内分泌内科は、平成14年に糖尿病内科として開設され、平成18年に「糖尿病・内分泌内科」へ名称変更し、現在に至っています。

当科では、内分泌代謝疾患を幅広く診療しており、それらには、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺及び関連疾患、副腎及び関連疾患、性腺疾患、多腺性内分泌疾患、肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの幅広い疾患が含まれます。

最近は、現代病のひとつに数えられている糖尿病の患者さまが圧倒的に多いためなのか、当科を初めて受診される患者さまの中には、糖尿病以外の疾患の検査や治療を目的として紹介されているのにも関わらず、自分が糖尿病にかかってしまったのではと勘違いされている方が少なからずいらっしゃるようです。

上記のごとく、糖尿病以外の内分泌代謝疾患も幅広く診療していますので、当科に紹介されてもがっかりなさらないようお願い申し上げます。



新しい肥満症治療薬について

肥満症とは、体格指数(体重を身長で2回除したもの)が25以上あり、肥満に起因・関連する健康障害(高血圧症、糖尿病などの耐糖能障害、脂質異常症、高尿酸血症、冠動脈疾患、脳梗塞、脂肪肝、月経異常、睡眠時無呼吸症候群、変形性関節症などの運動器疾患、肥満関連腎臓病)をひとつ以上合併している状態を指します。

世界中で肥満症が大問題となっていることを背景に、有効な治療薬の開発が進められて来ています。日本においても、昨年から新しいタイプの肥満症治療薬(GLP-1受容体作動薬、GIP/GLP-1受容体作動薬)が使えるようになっています。これらは万能ではありませんが、今までの治療方法がまったく効かなかった肥満症の改善に一定の効果が報告されています。肥満症でもないのに、瘦身目的の自由診療でも使用されているそうです。期待の新薬ですが、あいにくこれらの薬を保険診療で処方できる医療機関は大田区内でも限られています。

肥満症でお困りの方は当科にご相談ください。
なお、薬物療法を開始する前に管理栄養士の指導に基づく6ヶ月間の食事療法が必要です。



耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 高柳 博久

耳鼻咽喉科は、耳(慢性中耳炎、難聴など)・鼻(アレルギー性鼻炎、蓄膿症など)・のど(扁桃炎、生体ポリープ、舌炎など)・首回り(リンパ節炎、耳下腺炎、甲状腺炎など)の病気に加えて、めまいや顔面神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群など幅広い症状にくつ対応しています。

小さなお子さんからご年配の方まで、さまざまな世代の患者さんを診察しています。

手術は耳(鼓室形成術、鼓膜チューブ留置術など)・

鼻(内視鏡下に副鼻腔手術など)・喉(扁桃摘出術、

舌腫瘍切除術など)・首回り(甲状腺腫瘍摘出術、

リンパ節摘出術など)の手術、嚥下の手術(=嚥下機能改善術、誤嚥防止術)など幅広く対応し、年間

約200件以上行っています。

進行がんなどの高度な技術を必要とする手術は

大学病院、専門病院と連携し対応しております。



嚥下障害について

近年増加し続けている誤嚥性肺炎は、「食べ物や飲み物がうまく飲み込めない」、「むせやすい」といった嚥下障害(=飲み込みの問題)が原因となっています。

当院では、嚥下障害チームを立ち上げ、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、栄養科が連携して検査や治療(手術、リハビリテーション)を行い、院内患者さんの嚥下障害に取り組んでいます。

これにより、院内での食事中の窒息事故や肺炎の予防に役立ち、そのことが患者さんの安全な食事支援につながっています。

現在は、外来診療においても嚥下機能検査、リハビリテーション指導などを行っており、入院・外来の両面から嚥下障害に対応しています。



ううさいの森

Vol. 183 2025年12月号



富士川からの富士 病院長 森田 明夫 撮影

今年も、外来窓口の待合室にクリスマスツリーを飾っております。ホットテラス（中庭）にはイルミネーションも設置しておりますので、是非ご覧下さい。



11月14日を含む1週間は「全国糖尿病週間」です。糖尿病に関する様々な啓発活動が集中的に行われる期間であり、当院でも看護部を中心となり血糖測定や看護相談、中庭ライトアップなど、様々な糖尿病イベントを行いました。



11月18日(火)に、健康・楽しみ・交流の場「ひだまり」を開催しました。テーマは「誤嚥性肺炎を防ぐために今日からできること」です。舌や頬を動かしながら飲み込みに必要な動きを確認を行ったり、とろみ付きのジュースを飲み、とろみ質感体験をしました。

～次回開催日程～

「食事から考える動脈硬化予防」「作って贈って！ひだまりクリスマス会」
日 時：12月16日（火） 15：30～16：30
場 所：3階 大会議室
参加費：無料（ご軽くご飲食ください）



ろうさいの森 地域紹介コーナー

いつのわ水門橋が本年4月に竣工し、東京モノレール昭和島駅一見晴らし橋経由のルートがグッと近くになりました。当院から徒歩で14分ほどです。湾岸散歩はいかがですか？



目晴らし 橋から朝日の当院

元哨りし宿から朝日02
総集人 小又 美條

精神・神経科

精神・神経科医師 出口 育海

精神・神経科では、「メンタルヘルス外来」として、年齢・性別を問わず全ての患者さんの心のさまざまな困りごとに、患者さんの状況を丁寧に伺いながら診療を行っています。

地域の方々や都内の勤労者を対象とした外来業務の他、精神疾患を抱える入院患者さんのサポートや、入院中に様々な理由で心や睡眠の困りごとを抱えてしまった患者さんのサポートなどが主な業務です。

疾患としては、統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害など）、適応障害、不安障害などの神経症、認知症、睡眠障害、てんかんなどを中心に診療しています。時には精神科での診断ははっきりつかない場合もありますので、患者さん一人ひとりのお気持ちや状況に合わせて、患者さんの状況に応じた適切な支援を心がけています。

精神科と聞くと、少し緊張してしまう方もいらっしゃるかもしれません。
心や睡眠に関するお困りごとは、どのような内容でもお気軽にご相談ください。



適応障害/うつ病について

適応障害は、大きなストレスに直面した脳が、心を守るために「今、ストレスだよ！ 休もう！」と警報を出して、社会生活が送れなくなってしまう病気です。症状は人それぞれで、気分の落ち込みや、やる気の低下、強い不安、頭痛などの体調不良が出ることもあります。ストレスから離れることが出来れば軽快するのが特徴で、治療はストレスから離れるためのアドバイスやストレスを減らす対処法、社会的支援が中心です。薬は必要ない場合もあります。

一方、うつ病は、ストレスなどさまざまな原因で脳の神経が疲れ、「安心して」や「楽しいよ」などの指令が出なくなる病気です。ほぼ一日中続く気分の落ち込みや興味の喪失が2週間以上続くことが目安となります。

治療は休息と薬で神経を回復させることです。薬は疲れた神経のお手伝いをするだけで、松葉杖のような一時的な支えの役割になります。

精神科の相談は少し勇気がいるかもしれません、心の悩みだと思っていたものが神経の疲れたりするかもしれません。
遠慮なく当科にご相談ください。



皮膚科

皮膚科副部長 横田 真樹

皮膚科では、感染症・炎症・創傷・腫瘍・自己免疫疾患など、皮膚に生じるあらゆる疾患に幅広く対応しています。当科には、学会専門医1名と専攻医1名の常勤医2名と、さらに学会専門医の非常勤医2名が勤務し、外来、手術、入院診療を行っています。

当院では、腫瘍病変に対して受診当日にMRI検査を実施できる体制を整えており、速やかに手術の必要性や治療方針を検討することができます。

また、自由診療(費用・リスクについては事前にご確認ください)にも力を入れており、シミ取りレーザーや、ほくろ・いぼの切除を目的とした炭酸ガスレーザーなどを用いて、皆さまのお悩みに幅広く対応しています。

帯状疱疹について**帯状疱疹とは**

帯状疱疹は、幼少期にかかった水痘(水ぼうそう)のウイルスが体の神経節に潜伏し、長い年月を経て再活性化し、水疱を伴う皮疹と疼痛を生じる疾患です。年齢とともに免疫力が低下すると発症しやすく、**50歳以上の方に多くみられます**。過労やストレス、他疾患の治療などで免疫力が低下しら際にも発症することがあります。

主な症状

体の左右どちらか一方に、ピリピリ・ズキズキとした疼痛が起り、数日後に同部位に水疱や紅斑が出現します。症状は神経の走行に沿って出るため、左右どちらかに帯状に広がるのが特徴です。重症化すると発熱や全身に小さな水疱が散在する場合もあります。皮疹は水疱から膿疱、かさぶたへと移行し治癒しますが、その後も**帯状疱疹後神経痛**とよばれる痛みが続くことがあります。早期治療が重要です。

治療

抗ヘルペスウイルス薬の内服または点滴を行い、治療期間は通常1週間です。早期に開始することで症状の軽減や後遺症(神経痛)の予防が期待できます。疼痛が強い場合には鎮痛薬を併用します。

ワクチンについて

帯状疱疹はワクチンで予防が可能です。50歳以上の方に推奨されており、発症予防や重症化予防、後遺症(帯状疱疹後神経痛)の軽減に効果があります。

当院採用ワクチン:シングリックス(不活化ワクチン)

従来の生ワクチンとは異なり、ウイルスを使わない「不活化ワクチン」のため、**免疫が低下している方でも接種可能**です。臨床研究では、発症予防効果は90%以上で、帯状疱疹後神経痛の予防効果も高く、効果が長期間持続するといった結果が示されています。

接種方法

2か月以上の間隔をあけて2回接種します。注射方法は上腕への筋肉注射で、接種部位の痛みや腫れ・発赤・発熱や倦怠感などの副反応がみられることがありますが、多くは数日でおさまります。

費用

シングリックスは任意接種で、自治体により助成制度があります。

費用や予約方法など、ご不明点があればお気軽に当院職員へお尋ねください。



帯状疱疹